



## 薬物乱用防止教室～6年生～

昨日26日(木)は、東警察署からスクールサポーターの山口さんを招き、薬物乱用防止教室を行いました。児童会室から Zoom 配信で6年生教室と結び、講話や映像を交えながら薬物の危険性について学びました。講師からは、大麻の乱用が青少年層まで拡大する等、若年層の薬物乱用未然防止対策が重要となっていることを学びました。映像からは、子供たちに忍び寄ってくる危険な薬物には、覚せい剤、大麻、錠剤のような形のMDMAなどがあることを学びました。薬物には、見るからに薬物というものもあれば、たばこのようなもの、サプリメントと区別のつかないような一見ラムネのように形の紛らわしいものも多くありました。また、薬物が奪うものとして①脳: 情報伝達がうまくできなくなやめられなくなる ②心: やる気・思いやる感情などが無くなり、無気力になったり人を傷つけたりしてしまうようになる ③命: 薬物による体への影響で、全身がボロボロになってしまう など様々な悪影響があります。山口さんは「薬物は、一回ぐらいなら大丈夫と思っても、繰り返し使わずにはいられなくなり、やめたくてもやめられなくなってしまう『依存性』と、使用を繰り返しているうちに、それまでの量では効かなくなり、薬物の使用量が増える『耐性』があります。絶対に手を出さないようにしてほしい。」と子供たちに訴えかけてくれました。薬物を売ろうとする者は、「1回だけなら大丈夫。」「やせられるよ。」「みんなやってるよ。」など甘い言葉をかけてきます。そんな誘いの言葉にだまされず、「はっきり・きっぱり」断る勇気を持って欲しいと思います。また、問題がある薬物を勧めてくること自体に違和感を持ち、危険を察知する判断力を身に付けることが大切になってきます。お家でも是非、話題にして欲しいと思います。



## 「終末時計」の示す意味

BBS ニュースジャパンによると、人類滅亡までの残り時間を象徴的に示す「終末時計」の残り時間が24日(火)、過去最短の「90秒」になったそうです。この時計は、米科学誌「原子力科学者会報(BAS)」が毎年発表しているものです。1947年、核戦争の危険性を警告する目的で、米マンハッタン計画で最初の原爆開発に参加した米科学者たちが創設しました。真夜中の零時を人類滅亡の時とし、それにどれだけ近づいているか公表しています。BASは時計が進んだ大きな理由として、ロシアのウクライナ侵攻を挙げています。「終末時計」に対しては、様々な意見が寄せられていますが、ウクライナ侵攻は、核使用の懸念はもちろん、ヨーロッパなど世界でエネルギー問題を生み出しており、そのことで化石燃料の使用が増加し、気候変動に影響する可能性もあることも懸念されています。将来世代に負の遺産を残さぬよう、「終末時計」で世界の危機を訴える科学者たちの警告を、私たち一人一人が真摯に受け止める必要はあると思います。

